

ご自由にお持ちください。



vol.30

聖路加国際病院広報誌
セント・ルーカス

特集
1

医療の質を客観的に測り、改善する

特集
2

医療に100%はあり得ない
でも100%に近づける努力を

P7 聖路加国際病院は「地域がん診療連携拠点病院」として「聖路加式がん診療」を実践しています
P6 卒後臨床研修評価機構（J C E P）の認定が更新されました
P5 聖路加サポートーズ募金新規ご加入頂いた方々

P8 患者様のご意見から
P7 新型インフルエンザ対策合同訓練を実施しました
P9 聖路加レシピ
P10 寒い冬に負けない！～冷え性改善エクササイズ～



病院名は、キリスト教徒で
医者の守護聖人とされる
聖ルカにちなんで
名づけられました。

<http://hospital.luke.ac.jp/>



特集.1

医療の質を客観的に測り、改善する

聖路加国際病院では、2005年から、指標を用いて医療の質を評価し、改善につなげる取り組みを続けています。この「QI(Quality Indicator, Quality Improvement)活動」を始めた目的、めざすことについて福井次矢院長に聞きました。

ベストプラクティスが行われているか？

当院では、病院運営の基本方針を8項目にまとめてあります。その2つめに掲げているのが、「医療の質を高めるため、『根拠に基づいた医療』を実践する」です。私自身、根拠に基づいた医療を行いたいと、常に意識していました。

また、QI活動を始めた当時は、「病院のランキング本」が多数出始めた時期。聖路加は上位にランクインされていたものの、「何を持って評価するのか」という評価基準に疑問を感じました。そうしたことから、根拠に基づいた質の高い医療をすることを示すには客観的なデータが必要と考えたのです。それが、QI活動を始めたきっかけです。

QI活動は、「医療の質とは何か」「どんな指標で医療の質を測るべきか」を考えるところから始まりました。まず、医療の質にはちゃんと定義があります。端的に言えば、エビデンスに基づいた標準的な医療を、臨床現場で患者さんに対してどの程度行っているか。それを評価する指標が、「クオリティ・インディケーター」です。

ただ2005年当時、日本ではクオリティ・インディケーターを使って医療の質を測るという取り組みはまだ行われていませんでした。ですから、海外での取り組みを調べ、アメリカやオーストラリアなどの先進事例を参考に、具体的な指標を考えていきました。

Q—I活動で重傷の転倒・転落は半減



現在は、毎年100項目ほど
のクオリティ・インディケーターを測定し
ています。たとえば転倒・転落

については、アウトカムとしての「転倒・転落発生率」「転倒・転落による損傷発生率」に加えて、プロセスとしての「アセスメント実施率」「予防対策立案率」「予防対策説明書発行率」「再アセスメント実施率」もみています。

2004年当時、転倒・転落の発生率(転倒・転落による損傷発生率)は、2・13%でした。問題の重大さを認識し、2006年に転倒・転落研究会を立ち上げて話し合いを始めたところ、ひとりの看護師が「病室内に手すりがない」と指摘してくれました。その言葉を受けて、全病室に手すりをつけ、微妙な段差もなくしました。そのほか、転倒・転落のアセスメント項目を見直したり、患者さんごとにどんな予防策が採られているのかをわかりやすくするために各病室の入り口にアートで表示するなど、多くの対応策を実施した結果、2013年には転倒・転落発生率は1・56%に。また、転倒・転落件数のうち、患者さんに重度の損傷があつた割合を

示す「損傷発生率」も、2004年の0・04%から2013年には0・02%に減りました。

これは一例ですが、数値を出さなければ、医療が良くなっているのか、悪くなっているのかすらわかりません。

全国の医療の質向上へ

他の業界では、半世紀以上前からPDC Aサイクルによる継続的な改善が行われていますが、医療界では、ようやく導入されたばかりです。なぜなら、クオリティ・インディケーターのようなものがない限り、適切な「チェック」ができないから。クオリティ・インディケーターを設定し、測定することで、客観的な「チェック」が可能になり、

より良い医療をめざして改善のサイクルをまわすことができるようになります。

2009年度には、厚生労働省から依頼され、当院で行っているQ—I活動を全国に広めるための研究を行っており、翌2010年3月には報告書にまとめました。その後、厚労省の補助金を受けて、毎年3つの病院団体がQ—Iの測定と公表を開始。当院が所属している日本病院会も、Q—Iプロジェクトを行っています。

初年度の2010年度は30病院で始まりましたが、2015年度には337病院に増えました。

その他の主な病院グループも、クオリティ・インディケーターを使ってPDC Aサイクルをまわして改善につなげるという取り組みを始めました。





特集.2

医療に100%はあり得ない でも100%に近づける努力を

クオリティ・インディケーターを使って、どのように医療の質を改善しているのかー。ここでは、データの解析を担当する情報システムセンターの嶋田元医師と堀川知香さんに、改善に向けた取り組みについて語ってもらいました。

QIは医療の質を表す指標であり
改善活動そのもの

当院では「QI」を「」の意味を込めて使っています。一つは、「Quality Indicator(クオリティ・インディケーター)」、もう一つは、「Quality Improvement(クオリティ・インプレーメント)」です。

「忙しい臨床現場では、目の前のことにつき生懸命で、自分では『でかいでいる』と思っていても、実際にはできていないこともあるでしょう。クオリティ・インディケーターを使つて数値化することで、臨床現場で働く医療者に気づきを与えることができます」と、情報システムセンター長の嶋田元医師は言います。

ただ、当院のQI活動で重視しているのは、ある一時点での良し悪しの評価ではなく、「1カ月前、1年前にできていなかつたことが、今日、今年良くなっているか」という変化です。「できていないとこに気づき、改善すること」が大事であり、だからこそ、QIは単なる指標ではなく、改善に向けた取り組みそのものでもあるのです。

QI活動にどのように取り組んでいるのかと言うと、まず、部署ごとに測定する指標を決めてもらい、そのなかでも重要なものを毎月開催する「QI委員会」でフォローしていきます。さらに指標ごとに主たる担当者を決め、委員会参加者からの助言も得ながら、担当者を中心に、具体的な改善の方法を考えています。

勉強会や院内の認定医制度で重篤な合併症が減少

改善の方法は、さまざまです。たとえば、糖尿病患者さんの血糖コントロール(HbA_{1c}が7%以下にコントロールされている患者さんの割合)においては、専門医以外の医師も血糖降下薬を処方する機会が多くなったため、QI委員会で勉強会を複数回開催し、血糖降下薬の選び方などについて、専門医に講演をしてもらいました。

情報システムセンターの堀川知香さんは、「勉強会後、顕著にコントロールが改善した医師もありますし、勉強会によって全体の底上げができたと感じています。同じような取り組みは、高血圧など、他の疾患でも行っています」と、勉強会の効果について説明します。

実際、HbA_{1c}が7%以下にコントロールされている糖尿病患者さんの割合は、2004年時には31・0%だったのが、2013年には66・3%にまで上がりました。

また、院内のルールやガイドラインを見直すことによって改善を図るケースもあります。たとえば、中心静脈カテーテル挿入術は、長期の榮



堀川知香さん

養管理や複数の点滴を必要とする患者さんに不可欠とされる処置ですが、まれに気胸や動脈穿刺といった重症な合併症が発生することがあります。

当院では、2008年に調べたところ、438件中27件、6・2%のケースで発生していました。この数値は一般的な報告よりも少し高い数値であったため、外部の医師を招いて勉強会を行つたほか、院内の認定医制度を導入しました。「指導医のもとでの見学1回、助手3回、術者3回の経験を経て、指導医の承認を受けなければ、独立した術者として中心静脈カテーテルを挿入できない」というルールを新たに設けたのです。

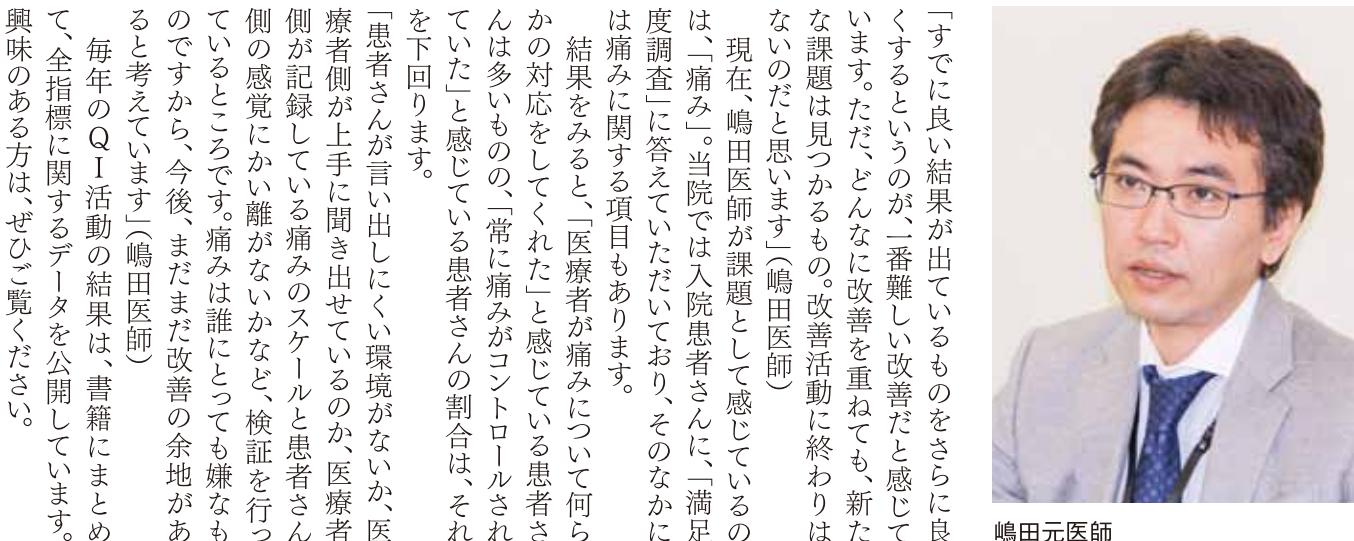
その結果、中心静脈カテーテル挿入術に伴う重篤合併症発生率は、2013年には、592件中6件と、1・0%にまで減少しました。

「痛み」の改善も

このように順調に改善が進んだ例もあれば、なかには改善が難しいものもあります。たとえば、「エビデンスを確立できない領域」。

QIの基本は、「科学的根拠に基づいた医療が実施されているかどうか」ですが、希少症例など、そもそもエビデンスを確立できない領域もあります。「悩ましいところですが、現場で困っていることに対しても、一つひとつ解決するというアプローチで、改善を重ねています」と、嶋田医師。

また、ベストな医療を実現するには、それぞれの項目で達成率100%をめざすのが理想ですが、95%のものをさらに引き上げるのは難しいものです。



嶋田元医師

「すでに良い結果が出ているものをさらに良くするというのが、一番難しい改善だと感じています。ただ、どんなに改善を重ねても、新たな課題は見つかるもの。改善活動に終わりはないのだと思います」(嶋田医師)

現在、嶋田医師が課題として感じているのは、「痛み」。当院では入院患者さんに、「満足度調査」に答えていただいており、そのなかには痛みに関する項目もあります。

結果をみると、「医療者が痛みについて何らかの対応をしてくれた」と感じている患者さんは多いものの、「常に痛みがコントロールされていない」と感じている患者さんの割合は、それを下回ります。

「患者さんが言い出しにくい環境がないか、医療者側が上手に聞き出させているのか、医療者側が記録している痛みのスケールと患者さんの感覚にかい離がないかなど、検証を行つているところです。痛みは誰にとっても嫌なものですから、今後、まだまだ改善の余地があると考えています」(嶋田医師)

毎年のQI活動の結果は、書籍にまとめで、全指標に関するデータを公開しています。興味のある方は、ぜひご覧ください。

聖路加国際病院は「地域がん診療連携拠点病院」として 「聖路加式がん診療」を実践しています

「高度な総合病院機能」、「ワンストップサービス」、「チーム医療」によって、
がん患者さんとご家族の方々へ安心かつ質の高い医療を提供できるよう努めています。



■高度な総合病院機能

糖尿病・高血圧症などの生活習慣病や心臓疾患・動脈硬化症・腎臓疾患など、様々な合併疾患有する方も持病の治療を継続しながら持病の状態に応じたがん治療を受けることができます。

■ワンストップサービス

一度、当院にお越しいただければ、診療科の振り分けから受診、治療、必要に応じて入院加療を提供いたします。また、退院後の通院、地域の医療施設や在宅医療へのご案内もシームレスに受けすることができます。

■チーム医療

医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーや事務員など、様々な医療職が集まり、より質の高い医療を提供いたします。また、院内の患者サロンや患者会をご紹介し、同じ状況を経験した方同士の支え合いのために、専門職がお手伝いいたします。

当院のがん診療は、PDCAサイクルによる評価・改善を行っています。

PDCAサイクルとは…

Plan(計画) → Do(実行) → Check(評価) → Act(改善)

の4段階を繰り返すことによって、がん診療の質・安全等の継続的な改善を図ります。

下記のPDCAに取り組んでいます。

- 口腔ケアの推進：がん患者さんの、お口の中のケアを充実させます。
- 苦痛のスクリーニングの実施：がん患者さんの身体的痛み、気持ちのつらさ、日常生活の支障等のスクリーニング実施体制を構築します。
- 広報活動の強化：がんに関するあらゆる情報（治療、がん相談、がんに関する勉強会など）について、患者さん・ご家族にわかりやすく情報をご提供します。



がん相談支援室では、がんに関する一般的な医療情報のご提供や、療養上の不安など、がんに関連するご相談をお受けしております。

相談受付時間：平日8:30～17:00 電話番号：03-5550-7098(直通)

どなたでもご利用になります。相談料金はかかりません。お待たせすることもございますが予めご了承ください。

お知らせ

がん登録推進法に基づき、2016年1月から全国がん登録制度が開始されます。これにより全国の病院はがん患者さんの情報（氏名、生年月日、性別、住所、診断日、部位、病理組織型、病期、治療方法、転帰、死亡日等）を国へ提供することが義務づけられ、それらの情報は国でデータベース化され、がん医療の質の向上等に活用されます。

卒後臨床研修評価機構(JCEP)の 認定が更新されました



当院は医師の新臨床研修制度において「基幹型臨床研修病院」に指定されています。もとより、実地修練(インターン)制度が法制で義務化された1947年よりはるか以前、1933年から米国式インターン・レジデント教育制度をいち早く導入し、以来、多くの医師を養成してきました。「臨床研修の理念」のもと、日々と未来の医療を担う医師の育成に努めています。

聖路加国際病院 臨床研修の理念

将来専門とする分野にかかわらず、幅広い病態・疾患に対応できる医学知識・技量を基盤に、キリストの愛の心をもって患者・家族の価値観に配慮し、医療チームの一員として高度な医療を実践できる能力を身に付ける。

卒後臨床研修評価機構(JCEP)は、よい医師の養成に寄与し、医療の質の改善と向上をめざすため、臨床研修病院における研修の実態を調査し評価を行う鑑査機関です。当院は外部機関による評価を通じて臨床研修病院としての機能を強化し、研修体制の更なる充実を図るため、2006年12月に評価を受審し、全国の研修病院に先駆けて認定を受けました。このたび2015年9月に書面・訪問調査を受け、2回目の認定更新となりました。

鑑査意見(総合コメント)

聖路加国際病院においては、伝統ある教育病院として「優れた医療人を育成する」という愛情と熱意が指導医の隅々にも受け継がれ、良質な研修が行われています。研修医の意欲、誇りそして満足度も高く、今後も我が国の臨床研修病院のトップリーダーとして、さらに質の高い臨床研修病院を目指して発展されることを期待します。

当院では、指導医の監督のもとに研修医(医師免許を取得した1年目、2年目の医師)が「受持医」として診療にあたっています。皆様のご理解とご協力を願いいたします。お気づきの点がございましたら、お申し出ください。

新型インフルエンザ対策合同訓練を実施しました



2015年11月19日(木)に東京都および中央区保健所と新型インフルエンザ対策合同訓練を行いました。新型インフルエンザとは、毎年流行する季節性A型インフルエンザが変異した新種のインフルエンザによっておこる感染症です。発生すると、ほとんどの人が免疫を持たないことから世界的大流行を起こす恐れがあります。

この度の合同訓練では、都内で新型インフルエンザ患者が数名発生している「国内発生早期」において、患者が突然救急外来を受診した場合と、保健所が開設する相談センターを

介して受診した場合の2パターンを想定した訓練を実施しました。

訓練には、区中央部および区東北部保健医療圏の保健所および協力病院の関係者、当院の救急部、感染症科、小児科、臨床検査科、医事課、施設課、QIセンターを中心とした職員が参加しました。

患者が突然受診する場面では、受付で隔離の必要性を速やかに判断し、陰圧テントに案内する手順を確認しました。陰圧テント内では診察、検査、発生届の提出を行うなかで、検体や情報の流れについていくつかの課題を明らかにすことができました。テントから外来陰圧室、そして移送車への患者の移動経路についても評価を行いました。

訓練終了後は、中央区保健所内会議室において講評が行われました。講評では日頃から病院と保健所の職員が顔の見える関係を築いていることの重要性や今後の課題などについて意見を交わしました。

訓練から見えた課題を解決するために、今後も保健所と院内関係部署とが連携しながら、実際に新型インフルエンザが発生した際には、地域の感染予防に貢献できるよう努めてまいります。



聖路加サポートーズ募金 新規ご加入頂いた方々 2015年9月1日～11月30日

ご支援ありがとうございます。

石倉 卓磨 様 岡田 太郎 様 後藤 英夫 様 後藤かよ子 様 佐藤エキ子 様 株式会社 三特興業社 様
猿田 享男 様 島田 裕司 様 長瀬 雅則 様 長瀬 光子 様 日野原重明 様 株式会社 パラキャップ社 様

※この他匿名希望2名の方にご参加いただきました

個人・法人別 50音順

患者様のご意見から

インフルエンザの集団感染などの報道が出るようになってきました。厚労省では、インフルエンザの予防策として次の6つをあげています。①流行前のワクチン接種、②飛沫感染対策としての咳エチケット、③外出後の手洗い等、④適度な湿度の保持、⑤十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、⑥人混みや繁華街への外出を控える。インフルエンザ予防のため、また、周囲の人にもうつさないために皆で気を付けたいですね。

当院では、みなさまから頂戴したご意見やご要望をもとに、よりよい病院を目指して改善に努めております。今回は、患者様にご利用いただける院内のサービスについてご紹介いたします。

ご意見

入院中にEメール添付のファイルの印刷が必要になったが、病院内のどこでできるかわからず、「さわやか学習センター」にてできることがわかるまでに時間がかかりました。

回答

ご不便をおかけいたしました。「さわやか学習センター」でご利用いただけるサービスについて、わかりやすい掲示をするようにいたしました。「さわやか学習センター」では下記のサービスをご利用いただけます。ぜひご利用ください。

さわやか学習センター

場所	本館2階 外来西 旧館連絡通路側(28番検査室横)		
開館時間	月~金 9:00~16:30(土・日・祝日は休館)		
利用案内	図書	医学に関する書籍や雑誌を自由に閲覧できます。人体模型もあります。	
	図書の貸出し	お一人一冊まで。貸出し期間は3日間です。	
	コピー	モノクロ	1枚 A4, A3, B5, B4サイズ : 10円
		カラー	1枚 A3サイズ : 80円 その他のサイズ : 50円
	インターネット	インターネットを使えるWindows端末が2台あり、無料でご利用になります。 ただし、印刷は有料です(コピー料金と同額)。 ●MS Officeなどの文書作成ソフトは入っていません。 ●CD,USBはご利用になれません。 ●お持ちになった端末をLANケーブルでインターネットに同時に2台まで接続できます。 (LANケーブルを貸し出しています。印刷はできません)	
			
	クラス	毎月1回、血圧測定クラスを開催しています。 開催日時は、さわやか学習センター入口に掲示します。	
	FAX	国 内	A4サイズまでのシート状のもの1枚 : 50円
		海 外	本館地下1階売店をご利用ください。
	備 考	●FAX受信はできません。 ●領収書が必要な方は、本館地下1階売店のFAXをご利用ください。	
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ●飲食・喫煙・携帯電話の使用はご遠慮ください。 ●さわやか学習センターで提供している情報は、特定の治療法をお勧めするものではありません。 また、ご自身の状況と一致しない場合もあります。こちらで得た情報を元に、疑問点など詳しくは担当医師に相談されることをお勧めします。 		

St. Luke's Recipe

聖路加国際病院では通常のお食事に加え、特別食のご用意もございます。

特別食は予約制となっており、前日の午後3時までご注文をお受けしています。

ご注文には医師の許可が必要です。

11月4日 昼食 特別洋食 [769kcal 蛋白質37.3g 食塩3.6g]



- ロールパン
- バター、ジャム
- オニオンコンソメスープ
- ソテーポーク イタリアン
- 季節のサラダ ドレッシング
- 季節のフルーツ盛り合わせ
- 紅茶(ミルク、レモン)

11月4日 昼食 特別和食 [642kcal 蛋白質27.2g 食塩3.7g]



- ご飯(金芽米)
- 味噌汁
- さわら柚子味噌焼き
- 里芋そぼろあん
- 白菜・三つ葉浸し
- フルーツ
- 漬物

特別洋食／2,160円(税込) 特別和食／1,720円(税込) 特別洋食の朝食(860円)もございます。

寒い冬に負けない！〈冷え性改善エクササイズ〉

冷え性の方にとって、寒い季節は「体が硬くなつて動きにくい」「眠りにくい」といった身体のコンディションが悪くなりやすい時期かと思います。今回、冷え性対策エクササイズとして、①有酸素運動 ②ストレッチ ③エクササイズを紹介します。

有酸素運動

全身運動によって、脂肪燃焼や血流向上、筋力や柔軟性の維持も期待出来ます。

15～30分程度を目安に、以下に挙げた運動を実施する。

例) ①ウォーキング ②水泳、水中ウォーキング ③エアロバイク ④踏み台昇降 など

仕事をされている方や、よく外出される方は、階段を使う、大股歩き、など
普段の移動時に意識することで、生活の中で有酸素運動を取り入れることが出来ます。

ストレッチ

ストレッチによって柔軟性が向上するだけでなく、血流も良くなります。

痛みを感じる手前の強さで、反動をつけずに1種類20～30秒ずつ5回程度。
入浴中・入浴後など身体が温まっている時が実施しやすいです。

①脚の後面のストレッチ



②腰と背中のストレッチ



エクササイズ

筋肉が動くことで血流が良くなるだけでなく、関節も動きやすくなります。

1日1回、各運動を10～20回ずつ実施することが目安です。

①立って足指のグーパー



②座って肘と反対側の膝をつける



ポイント・注意点

- エクササイズは無理のない程度に実施し、出来る限り継続して下さい。
- 姿勢に注意し、息を止めないよう呼吸をしながら実施して下さい。
- 腰や脚に痛みやしびれ、手術歴のある方は必ず主治医に相談してから実施して下さい。

一句逍遙

いっくしょうよう

8

「百四歳

秋空高く

我泳ぐ



百四歳になつた十月四日にこれを詠む。

日野原重明

学校法人聖路加国際大学名譽理事長
聖路加国際病院名誉院長
一般財団法人聖路加財团名譽理事長

ご寄付をいただきありがとうございました

皆様からいただいたご寄付は、ご芳志に沿って
大切に使用させていただきます。

金額	名前
20,000,000	株式会社聖路加サービスセンター様
1,500,000	小野寺久様
1,000,000	岩城佳津子様
500,000	糸魚川順様、浅香健二様、清水多恵子様
200,000	中山育之様
100,000	清水正雄様
10,000	小林政和様
合計	27,838,315円(上記他、匿名24名、匿名1団体、匿名3法人を含む)

2015年9月～2015年11月分

聖路加国際病院を運営する学校法人聖路加国際大学が、引き続き広く社会に貢献するとともに医療・看護の発展に寄与できますよう、多くの皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

ご寄付に関するお問い合わせは 学校法人聖路加国際大学 募金室(03-5550-2368)

聖路加国際病院の理念

*This hospital is a living organism
designed to demonstrate
in convincing terms
the transmuting power of Christian love
when applied
in relief of human suffering.*

Rudolf B. Teusler(1933)

キリスト教の愛の心が
人の悩みを救うために働けば
苦しみは消えて
その人は生まれ変わったようになる
この偉大な愛の力を
だれもがすぐわかるように
計画されてできた生きた有機体がこの病院である
ルドルフ・B・トイスター(1933)

Service & Action Information

聖路加健康講座

会場 聖路加国際病院本館2階 トイスター記念ホール
時間 午後6:00～7:00

入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。

2016年
1月26日(火) 老年看護学 教授 亀井 智子

認知症介護のコツとポイント

～取り入れよう ベストフレンド・アプローチ～

2月23日(火) 整形外科 副医長 伊藤 幹人
腰痛と下肢痛
～脊柱管狭窄症とは～

3月22日(火) 循環器内科 部長 小宮山 伸之
高齢者的心血管疾患
～その特徴から治療まで～

聖路加健康講座
聖路加国際病院の医師や看護師が講師となり、日常の健康生活のためのお話から最新の治療法まで、毎月様々なテーマで講演を行います。当院をご利用されたことがない方も、お気軽にご参加ください。

日程やテーマは変更になる可能性がございます。
最新の情報はHPにてご確認ください。

詳しくは
聖路加健康講座で検索

聖路加健康講座

検索

学校法人聖路加国際大学の理念

この法人はキリスト教主義に基づく人類奉仕の精神を体し、社会の情勢に適応する看護教育を授ける私立大学その他の教育研究施設を設置・運営することを目的とする。



聖路加国際病院

〒104-8560 東京都中央区明石町9-1
TEL.03-3541-5151(代) http://hospital.luke.ac.jp/エコプレス
バインダー針金・糊・加熱が不要な
製本方法で怪我の危険
に配慮しています。RICE
INK
輸送マイレージとCO₂排
出を抑え、地球温暖化に
配慮したインクです。